

新・新潟市の教育ビジョン検討委員会 市民委員を公募

今後の新・新潟市(合併13市町村)の教育が目指す方向とあり方を明確に示すため、今年度から「教育ビジョン」の策定を開始します。その教育ビジョン策定に関する検討を行う教育ビジョン検討委員会の委員を、新・新潟市内在住の皆さんから公募します。

同検討委員会は、公募委員のほか、学識経験者や学校教育・生涯学習関係者などの委員20名程度で構成します。任期は今年8月から平成18年3月までです。

◆応募方法 7月15日(木)(必着)までに、「新・新潟市の教育に望むこと」と題した作文(800字×1200字)と、住所、氏名、電話番号、生年月日、性別、現在の職業と活動歴(教育、福祉、環境、まちづくり等)に関する活動を記入し、直接お持ちいただくか、郵便、FAX、電子メールでお送りください。◆応募・問い合わせ 新潟市教育委員会総務課企画室 228-11000 (内線3211) FAX 223-5656 sommed@city.niigata.lg.jp

◆応募方法 7月15日(木)(必着)までに、「新・新潟市の教育に望むこと」と題した作文(800字×1200字)と、住所、氏名、電話番号、生年月日、性別、現在の職業と活動歴(教育、福祉、環境、まちづくり等)に関する活動を記入し、直接お持ちいただくか、郵便、FAX、電子メールでお送りください。

◆応募方法 はがき、FAXまたは電子メールに参加者全員(1申込みにつき最大7名まで)の住所、氏名、電話番号、大人・子ども(学年)の別、送迎バス利用有無(新潟駅発(午前9時)利用)、「岩室駅発(午前10時15分)利用」、「利用しない」から選択)を明記の上、上記の申込み先までお送りください。◆応募締切 7月22日(木)必着 当選の発表、詳しい日程の連絡等について、当選者あてに郵送します。

河川流域連携 イベント案内

新潟地域合併13市町村では、合併後の新市と、阿賀野川・信濃川の上流域市町村との交流連携を推進する「河川流域連携イベント」を企画しています。

イベントは、流域市町村の物産販売やウォーターシャトルによる信濃川クルージングほか様々なアトラクションが楽しめる「にいがたりパビリオン」に、女優の浜美枝さんによる特別講演、上流域市町村の首長がこれからの流域連携のあり方を語る「河川流域連携フォーラム」から成り、8月下旬に開催する予定です。

川に関する川柳の募集

イベントの開催に先立ち、川にちなんだ川柳を募集します。優秀作品は8月下旬開催の同イベントの会場で展示します。なお、作品の著作権は合併予定13市町村からなる同イベント実行委員会に帰属します。

◆応募方法 ハガキまたは電子メール等で、住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記の上、7月31日(土)までに応募ください。川柳作品は自作未発表のもので1人5点まで。作品には必ずふりがなをつけてください。

まちづくり講座(基礎編) 参加者募集

◆応募・問い合わせ先 河川流域連携イベント実行委員会事務局「川柳応募」係 (新潟市土木総務課内) 226-2922 somupw@city.niigata.lg.jp 横越町建設企業課 385-2111

◆内容 午前9時～午後5時 8月28日(土) 黒埼地区公民館 まちの魅力に出会う 9月4日(土) 西川地区公民館 まち巡り・人巡り 9月25日(土) 石山地区公民館 石山まちづくり観光

◆対象 新潟市または周辺市町村に住むか通勤・通学している方で、まちづくりに興味がある、またはこれから地元で何か始めたいとお考えの方 ◆定員 各回30名。興味のある地区へおいでください。応募者多数の場合は抽選。 ◆締切 各回(黒埼、西川、石山)開催日の8日前の金曜日まで ◆申込・問い合わせ 新潟市街づくり推進課推進係 228-11000(内線3062) FAX 229-5190 machi@city.niigata.lg.jp

地域の魅力探訪ツアー 参加者募集

◆申込・問い合わせ にいがた食の祭典実行委員会事務局 (新潟市総合企画課内) 228-1000(内線2102) 223-1557 E-mail kikaku@city.niigata.lg.jp

13市町村の合併にあたり、食を通してそれぞれの地域の魅力・宝物を再認識し、各地域間の交流を深めるため、にいがた食の祭典実行委員会の主催により、「地域の魅力探訪ツアー」を開催します。第1回目は「岩室編」です。岩室村の郷土料理や自慢の家庭料理を味わうことができるほか、「名所めぐり」や地域の人たちとの交流会「くるまざ談義」などを行います。

◆日時 8月22日(日) 午前10時30分～午後3時30分 ◆会場 岩室村伝統文化伝承館 地元旅館及びその周辺 ◆参加者 150名 ◆応募者多数の場合は抽選。 ◆参加費 大人1名1,000円、子ども(小学生)1名500円、小学生未満は無料。(入浴料別途負担あり) ◆参加資格 新・新潟市エリア

横越歴史探訪⑤

横越町の歩んだ道を覗いてみよう 横雲橋完成・国道49号開通 横越は陸上交通の要衝へ



交通・輸送の活発化

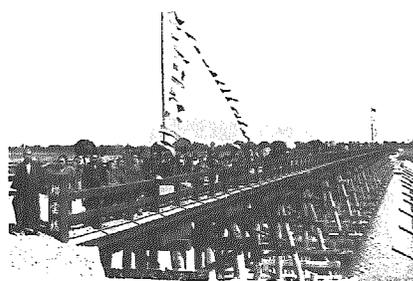
明治時代に入り、横越地域だけでなく、他地域との人々の交通や物資の輸送も次第に活発になり、それにつれて交通路も徐々に開けてきました。

横越村から新潟へ行く時は、亀田の船場まで行き、そこから栗ノ木川を船に乗って下りました。当時、水郷地帯であった亀田―新潟間は道路が整備されていなかったためです。

横雲橋の変遷

Table with 5 columns: 横雲橋, 完成年, 長さ, 幅, 材質. Rows: 初代 (明治8年, 306m, 5.4m, 木), 2代目 (明治21年, 306m, 5.4m, 木), 3代目 (明治35年, 306m, 5.4m, 木), 4代目 (大正14年, 549m, 4.5m, 木・砂利等), 5代目 (昭和39年, 905m, 7.0m, 鉄・コンクリート)

初代～3代目は、現在の横雲橋よりも下流側、4代目は上流側にあった。初代～4代目は、横越の堤防から対岸の河川敷までの架橋であったため、大雨で川が増水した時は利用できなかった。



大正14年7月4日の4代目横雲橋の渡橋式

横雲橋架橋後も、渡し舟は生活や産業に重要な交通・物流手段で、沢海―満願寺(新津市)、焼山(阿賀野)―窪川原(阿賀野市)、三ツ口(木津)―大蔵(新津市)で渡し舟が活躍。大正13年には、阿賀野川の河道変更に伴い、沢海―焼山の渡し舟も加

渡し舟も活躍

大河に橋が架けられるようになったのは明治以降のことです。明治8年、地元横越の有志数十名による株式会社「就安社」が、当時としてはかなり高度な土木技術により、長さ306m、



昭和39年5月8日に行われた横雲橋の渡り初め

昭和33年、ついに新しい永久橋の建設に着手しました。5年の歳月をかけて、総工費4億1,400万円、長さ905.1m、幅7mという画期的な長大で頑丈な永久橋が完成。昭和39年5月8日、塚田県知事、伊藤横越村長、京ヶ瀬村長など約300人が参列して、竣工式・渡り初めが盛大に行われ、開通しました。

陸上交通の要衝へ

明治24年に、横越を経由する新潟―会津若松間の県道が開通、



昭和36年(昭36)の子どもや通学の渡り舟(渡り舟の農作業が利用した。焼山間の渡り舟(昭36)の子どもや通学の渡り舟(渡り舟の農作業が利用した。)

わりました(昭和55年廃止)。とこで、木橋の横雲橋はたびたび洪水に見舞われ、橋が流失するたびに補修を繰り返してきました。橋の利用が年々増加していく中で、洪水で橋がなくなると、村民はもちろんのこと、新潟市周辺の産業に与える影響は大変大きく、応急措置として渡し舟が往き来しましたが、風雨等により連休し、困ることも度々ありました。

横雲橋は永久橋として

大正14年には亀田―水原間で横越經由のバスが運行開始。さらに昭和3年に新潟―新津間で二本木經由のバスが運行されました。

昭和28年には、新潟・福島両県をむすぶ県道が2級国道115号として昇格。さらに両県市町村で促進期成同盟会を作り国へ陳情し、昭和37年には1級国道49号(昭和40年に一般国道指定)と改められ、横越村は、陸上交通の要衝として一層重要となりました。

4代目横雲橋は、自動車の普及などでますます交通量が増加したことや洪水などにより、耐久性・安全性で不安が残る状態となり、永久化が叫ばれるようになりました。